着　衣 (着衣台) (着衣場)	肢挙上で力が入らない。 長時間の中腰介助である。	○片膝を台の上にあげて患者に接近し体位変換を利用し行う。 ○両膝をついて患者に密着して行う。	いる。 腰部への負担が軽減される。 ○身体を自由に動かす事が出来るので腰への負担が少ない。

入浴介助は、衣類の着脱、洗髪、清拭、移動と介助内容も多く、患者が裸であるので、特に注意が必要な上に床がすべりやすく、高温多湿で介助者の疲労度が大きい。今後の問題として、ボディメカニックスを考えた介助方法を工夫すると共に、より介助者の負担を軽減するためには設備、構造を合わせて検討しなくてはならないと思います。

34、自　助　具　の　工　夫

国立療養所刀根山病院
大久保　一　枝　　谷　　昭　子
中　村　三枝子　　栗　林　真理子
松　尾　美智子　　西　本　設　子

前年度に引き続き、今回は排尿時の自助具を中心に工夫した。

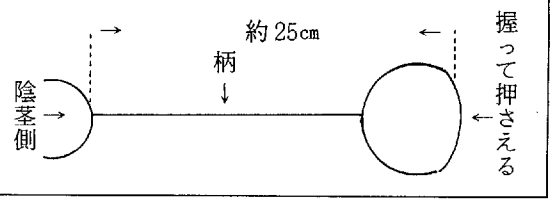
1. ズボンとパンツの工夫

ズボンとパンツの前開きを前立てより下部を更に10cm程開き、ファスナーにひもをつけ手指4本の力で上下しやすくした。これにより上肢筋力を使ってファスナーの上げ下げが容易になった。

2. 陰茎押え捧作成

肘関節拘縮等のために陰部まで手の届かない患者のために考案したものである。形は図1のようになっている。材質は角度が自由に調節できるように針金を用いた。最初針金を包帯で巻いたが汚染しやすい欠点があるので、O_2 カテーテルや輸液用のビニールチューブに針金を通したところ洗滌が可能であり、感触も好評となり十分自助具の役割を果している。

図1. 陰茎押え捧

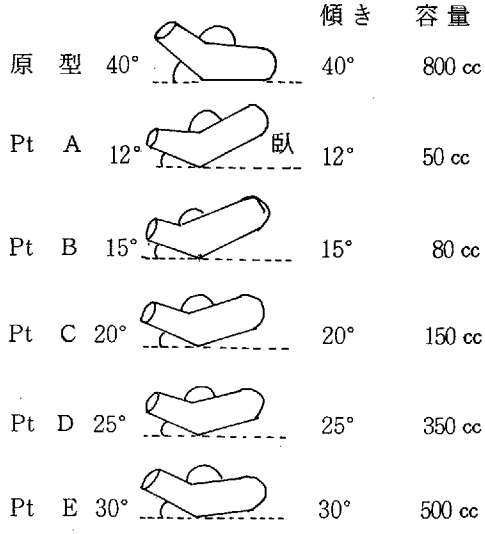


3. 尿器を中心とした工夫

排尿時問題が多いのは車椅子上で行う場合である。陰茎が出やすい患者は手が届きにくい場合でも押え捧使用で独自で排尿できるが坐位拘縮などのため、陰茎と尿器の位置がうまく合わない場合殿部を極端に前に出したり不自然な体位で排尿が終るまで全介助を要する。患者の苦痛とプライバシーの面から介助が簡単で安楽な姿勢で排尿できるように、排尿姿勢と尿器の関係を検討して、そこから得られる問題対策を考えた。

市販の尿器は平面に置いた場合角度40°で容量は800ccまで可能であるが、坐位拘縮のある患者5名を対象に排尿時の尿器の傾きと容量を測定した。結果は図2に示す通りでありそれ以上はこぼれる。

図2　尿器の傾きと容量



この欠点を補うため既製の安楽尿器をを試用したが受尿口の形と流尿管の接続位置が不適で使用できないので、安楽尿器の原理を応用して尿器を車椅子のシートより下部に固定する方法をとり、陰部と尿器までの間の受尿筒を考案した。

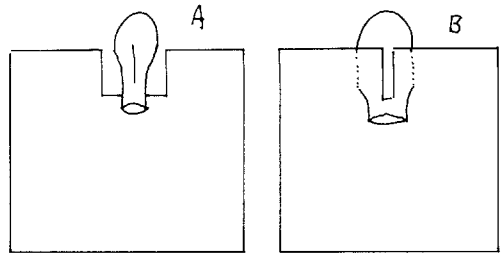
材質はプラスチックで、形はやや円錐状にして大きい方は尿器にはめ込み小さくした方の口が陰茎側になり一部カットしてあるところに陰茎を当て排尿する。長さ角度の調節が患者自身で行えるので極端に骨盤を前に出す必要がなく簡単な介助で排尿できる。欠点として肥満した患者は大腿部で固定ができるが、やせた患者の場合は位置がずれて失敗することもあるので今後なお検討の必要がある。

4. 坐布団の改良

尿器の位置を低くすれば良いということに気づき、坐布団の改良を試みた。最初図Aのように尿器の大きさに合せて坐布団をU字形にくり抜いた。排尿時は有効であるが日常的には大腿

部がカット部分に落ち込み体位が安定しない。そこでBのようにくり抜きを作らず直線にカットした。これは体位も安定し、尿器も坐布団にしっかりはさんだ形で固定でき介助が簡単になった。

図4　坐布団



以上各種排尿に関して自助具を工夫してきたが、患者は不安感、拒絶的態度を示すことがありこれらに対する心理的影響を考慮して根気よく患者とのよいコミュニケーションの中での工夫の大切さを痛感した。

35、看護手順作成

国立療養所刀根山病院
大久保　一　枝　　岡　田　史　子
柚　上　桂　子　　岡　田　ゆう子
宮　田　真　澄

〔はじめに〕

S39年に筋ジス病棟が開設されて以来刀根山病院では必然的にその場における看護手順が受けつがれてきた。この看護手順を成文化して、筋ジス看護をより多くの看護婦に啓蒙するとともに看護業務の能率化と徹底および一貫性を計るため今般当院における看護手順の作成を立案試作した。内容については次の通りである。

1.　病棟管理　　2.　臨床看護　　3.　機械器具の取扱い方の3つに区分した。

1.　病棟管理について

1）筋ジス病棟勤務者へのオリエンテーション

2）病棟の看護業務の特殊性として1日の患者の日課と看護業務、週間、月間業務など

3）他部門との協調として各種会議の主旨、親の会、筋ジス協会の主旨

4）看護体制

5）環境整備

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

前年度に引き続き、今回は排尿時の自助具を中心に工夫した。

1.ズボンとパンツの工夫

ズボンとパンツの前開きを前立てより下部を更に10㎝程開き、ファスナーにひもをつけ手指4本の力で上下しやすくした。これにより上肢筋力を使ってファスナーの上げ下げが容易になった。

2.陰茎押え捧作成

肘関節拘縮等のために陰部まで手の届かない患者のために考案したものである。形は図1のようになっている。材質は角度が自由に調節できるように針金を用いた。最初針金を包帯で巻いたが汚染しやすい欠点があるので、02カテーテルや輸液用のビニールチユーブに針金を通したところ洗滌が可能であり、感触も好評となり十分自助具の役割を果している。